

みことばであらわに(ルカ 8:9-18)

その人が祝福の人なのか、そうではないのかを判別するために、いろいろな基準が取り上げられます。しかし聖書は、神のみことばにどのように反応を示すかによってその人が祝福の人なのか、あるいは祝福とは縁のない人なのかが分かるようになります。そういう意味でイエス様は聞き方に注意しないとおっしゃいました。なので、何より神様のみことばをどのように聞くのか、それにどのような反応を示すのかはとても大切なことになります。だからサタンは、今日読みました聖書の前に種まきの例え話がありますが、この神のみことばが最初から理解できないように、聞こえないように妨げる働きをします。また、神のみことばを聞いたとしても、何かしらの試練があったときには、そちらの方がより大きくなるように、それでみことばを逃してしまうように働くものだということを例え話を通して説明していらっしゃいます。あるいは、神のみことばを聞きましたが、世にあるさまざまなもので、そちらの方がより大きくなつて神のみことばから離れてしまうことになるんだよと。サタンはあらゆる方法を通して神のみことばから離れるように、神のみことばに正しい反応を示すことがないように邪魔するものだということをおっしゃっています。しかし、その中で神のみことばをありのまま正しく受け入れる良い地が必ず備えられているということもおっしゃいました。その人がどういう人なのか、祝福の人なのかどうかをあらわにしてしまう神のみことばは、どのようなもので、どういう内容なのでしょうか。聖書 66 卷には多くのみことばがあります。あらゆることが書かれています。しかし、人が祝福の人なのか、そうではない人なのかをあらわにしてしまう神のみことばの核心の内容は、そんなに複雑なものではありません。人々が神のみことばのどのような内容にどのように反応を示すかによって、その人がどういう人間なのかがあらわになつてしまふ、その神のみことばの内容はどのようなものなのでしょうか。それを今日正しく聞き、改めて神のみことばの前に私たちはどのような反応を示しているのか。だから私は祝福の人なのか、そうではないのかということを確認して釘を刺していくたいと願います。

1. 自ら解決出来ない問題に溺れている人間

まず第一に、人をあらわにしてしまう神のみことばは、自らは解決できない問題に溺れている人間のことを語っているのが神様のみことばなのです。

世の中のどこに行っても見ることができない、聞くことができない、神のみことばだけに語られている内容です。これを聞いてこれにどのような反応を示すかがすべてなのです。

1) 本来の人間(創世記 1:27)

人間は本来、自然にできたものではなくて、創造主の神様によって造られて、特別に神のかたちに造られて、神様がともにおられてそれで幸せだ、それで充分な靈的な存在として造られたものなのです。何かがどう変わるから幸せになるではなくて、神様がともにおられる特別な存在なので、それ自体がもう幸せなのです。

2) 神様を離れた人間(ローマ 3:23、ヨハネ 8:44、エペソ 2:1-3)

証拠-自分、富、成功(勘違い)、宗教、偶像、シャーマン(騙され)

しかし残念ながら、そのような幸せな人間が悪魔サタンに惑わされて、神様に背いて神様を離れてしまう罪を犯してしまいました。その罪によって人間は神様を離れることになります。ローマ 3:23 「すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず」。神様のすべてから遮断されることになりました。神を失い、神様を離れて、神様が一緒でなくなったということは、裏返しますとどういうことなのかというと、ヨハネ 8:44 「あなたがたは、悪魔である父から出た者」である。私たちの意志と全く関係なく、悪魔に捕らわれて支配されて、悪魔の奴隸になってしまいます。だからエペソ 2:3 にあるように「生まれながら御怒りを受けるべき子ら」として生まれます。私たちが何をどうするかによって人生がどう変わる、それ以前に生まれながら悪魔に支配され、滅びる運命を抱えて生まれてしまいます。なので、これが人間、自分の問題だということに気づいてもいないし、たとえ気づいたとしても、自分自ら解決できるよう

な問題ではありません。私たちは表に現れている問題ばかり見ているので、それをどうにかしようともがいて、それがなくなったときにハレルヤ、あるいはそれがそのままあればため息をしてしまったり、そういうことしかできないものなのですが、実は私たちは神様を離れて、自分自らは解決できない問題に溺れているということが神のみことばなのです。皆さんは自分自身が本当にこのような存在だということに気づいて、素直にそれに「その通りですよ」という反応を示したことがあるのでしょうか。私たちが神様から離れて悪魔の奴隸となり、滅びの運命を抱えている、自分で解決できない不可能な問題に溺れているという証拠が何かというと、私たちは一生、自分本位で生きるわけです。神様のどうのこうのとは全く関係なく、自分がうまくいけば幸せ、自分の意見が通ればハッピー、そうでなければ落胆、全部が自分中心なのです。それが私たちには生まれたときから当たり前になつてるので当然だと思うでしょうが、それこそ神様を離れて神を失ってしまった自分で解決できない問題に溺れている裏返しなのです。神様を離れてしまったので、肉体的に裕福になれば幸せ、富を手に入れれば幸せという勘違いの中を生きることになります。なぜそうなつてしまつたのでしょうか。神様を失い、悪魔の奴隸になった結果、そうなつてしましました。それでこの世の中で成功することは幸せだと思いこんでいるわけです。いまお話を聞きながら、そのどこが間違っているのか、何がおかしいのかと思うかもしれません。世の中では今でも普通に当たり前にそういう勘違い中で生きてるわけですから。しかし、それが実は神様を離れて、神様を失い、自分で気づいていないでしょうが、悪魔に捕らわれていた結果、そうなつてしまつたということにぜひ覚えていただきたいと思います。だから、そのような勘違いの中で人生を生きるしかありません。そして、その勘違いを極めるために宗教を求めるようになります。自分自身を極めるために宗教にのめり込んでいくようになるし、また、裕福さ、ごりやくを極めるために偶像崇拜をするようになります。世の中では成功と出世と名誉のためにシャーマンの力を頼ることになります。そのように騙されて生きるしかない存在になつてしまいました。

3) 運命-身分、精神、肉体、人生、死と裁き、霊的遺産

だから絶対に自分自らはこの泥沼から滅びの運命から抜け出すことはできません。このような勘違いの中で騙されっぱなしの人生を生きるから、みなが幸せになりたいという願いがあるにもかかわらず、基本的に滅びの身分が変わらない、そのままなのです。あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出た者であるという滅びるしかない身分のまま生きるので、精神的に平安と安息、安らぎを得ることはできません。だから人間というのは精神的に基本的に不安を抱えて生きるしかありません。それが影響して肉体的にもボロボロになり、さまざまな苦痛を覚えることになり、自分なりに人生を一生懸命、頑張るつもりなのに、むなしい人生になるしかない、そういう運命の中を歩くことになりました。そして、人間は一度死にます。死後にはさばきを受ける運命が定められていて、そこから逃れることはできません。勘違いの中で生きているから。騙されて悪魔の騙しごとに見事に騙されて生きているわけですから。そして、このような滅びの運命が子孫たちに遺産として受け継がれる、これを避けることができません。運命なのです。みな幸せになりたいと思っているけれども、自ら解決できない問題に、つまり霊的な問題に溺れていることを知らないので、勘違いの中で騙されっぱなしの人生を送って、結局、滅びの運命から悲しみの運命から抜け出すことができないまま人生を送るしかありません。

4) イスラエルの歴史と個人の人生ストーリー

いま短く申し上げましたけれども、これがイスラエルの歴史から見られるものなのです。そしてイスラエルの歴史は遠いお話ではなくて、良心的に素直に考えると、皆さんひとりひとり、個人の人生ストーリーがこのようなものではないでしょうか。神様を知らないまま自分本位で自分が良いと思えば良い。自分が好きなものが好き。自分がうまくいけば幸せ。うまくいかないと不幸というように生きてきたのではないでしょうか。

5) 宗教、哲学、努力、行い…

そして、それを極めるために騙されることも知らないで宗教にのめり込んだり、何かを追求して求めたり、あるいはごりやくを求めて偶像崇拜をしたり、お札、お守りなどに頼ったり、何か超能力的なシャーマンを頼りにしたり、占いに走ったり、そのようにしてきたのではないでしょうか。だから幸せになりたいという願いはあるにもかかわらず、人生ボロボロではなかつたでしょうか。なぜなのでしょうか。自ら解

決不可能な問題に溺れているのに、それが分かっていなかったのでそうなるしかありませんでした。だから宗教に人生の答えがあるのだろうか。哲学にあるのだろうか。努力すればどうにか変わるのでないか。行いによって少し改善されるのかということを期待してもがきますけれども、そこに答えがないまま、それでもやもやのままの人生になってしまいます。これが神様が私たち人間に語っていらっしゃる内容です。神のみことばが私たちに語っている内容です。このお話を聞いて、どのような反応を示すかによってその人が祝福の人なのか、そうではないかがあらわになってしまいます。みことばはものさしです。すべてのその人の人生の幸せと不幸、祝福と滅びを測るものなのです。私たちは今まで財産の程度やその人の教養、あるいは社会的な地位、能力等々によってその人が幸いな者なのか、そうではないかをいつも判別していたかもしれません。今日限り、そこからぜひ抜け出してください。神のみことばによって人生あらわになります。そのみことばの内容がこのような内容です。だから神のみことばはこのように私たちに語っています。

2. 神様の一方的な救いの約束と成就

だからこそ、神様の一方的な救いの約束とそれを成就されたと語っていらっしゃるのが神のみことばなのです。

皆さんが聖書をいくら読んでも、このような神のみことばが聞こえてこないと、それは神のことばではありません。カトリック教会でもユダヤ教でも聖書をもって聖書を語っています。パリサイ人は聖書に命をかけています。しかし、彼らが取り上げている聖書を通して神のみことばが聞こえないのです。神のみことばは、自らは解決できない問題に溺れている人間のことを語り、だからこそ人間自らには希望など1ミリもなく、神様ご自身に救いがあり、希望があり、神様が一方的に救いを約束してそれを完璧に成し遂げられたと語っていらっしゃるのです。

1) 創世記 3:15、出エジプト 3:18、イザヤ 7:14

一番最初から神様は約束されました。女の子孫が生まれて、蛇の頭を踏み碎く。人間の問題の解決、真の救いは蛇、悪魔の頭を踏み碎いて勝利することのほかには道がありません。女の子孫、メシヤ、キリストを通して悪魔のしわざを完全に打ち壊すことを約束されました。そのキリストがその勝利のために、罪人の身代わりとなって犠牲のいけにえとしてご自分をささげることによって私たちの罪を完璧に赦されるということを約束されました。これが神のみことばなのです。そのことによってイザヤ 7:14、そのキリストは神が人とともにおられるインマヌエルとして、神様に出会える道、いのちとなられるということを約束されました。そのように約束されて自らはどうにもならない滅びの運命に捕らわれている私たち人間を救われることを約束されました。そして、その約束がその通りに成就されました。この地上に来られたイエス様こそ、約束のメシヤ、キリストなのです。

2) マタイ 16:16、ヨハネ 19:30

ペテロがその告白をしました。主は生ける神の御子キリストですよと。イエス様は悪魔のしわざを打ち壊すためのまことの王様であり、イエス様は私たちの罪のために犠牲のいけにえとなられたまことの祭司であり、イエス様は神様と出会えるいのちであるまことの預言者に間違いありません。主は生ける神の御子キリストです。イエス様がそのキリストです。そして、そのキリストであるイエス様は、約束どおりに十字架で死なれることすべてを完了されました。人間自らは何もできない、解決できない、その滅びの運命のことを、悪魔のしわざを、イエス・キリストが十字架ですべて完了してすべて終わらせました。これが神のみことばなのです。みことばは私たちにこれを語っていらっしゃいます。なので、今までの勘違いのように、こうすればああすれば、律法を守れば、守らなければダメというすべてが全部崩れて、一つだけ福音だけが残ります。

3) ローマ 10:13、ヨハネ 1:12

誰でもイエス・キリストの御名を呼ぶ者は救われる。世の中にはない法則なのです。神の国の法則です。誰でも黒人でも白人でも子どもでも大人でも娼婦でも人殺しでも裁判官でも関係ありません。誰でも主の御名を呼ぶ者は救われることになりました。これが神のみことばなのです。受け入れた人、、すなわちそ

の名を信じた者は、神の子どもになる特権が与えられる。他になんの条件もありません。人間自ら解決できない問題だと神様ご自身が一番よくご存知なので。同じ教会でもクリスチャンでも、二部礼拝でも申し上げますけれども、この神のみことばが正しく理解できないと信仰の他にいろんな条件が付くわけです。これであれでこれで。確信も持てないし、ついつい人をさばいてしまうし、他の何かで人を評価してしまったり、救いの確信も持てないまま救いを心から喜ぶこともできないのです。なので、その次のステップがなかなか見えてこないです。ここで礼拝を捧げている皆さん、遅いことなどありません。今がその時刻表なのです。二部礼拝を全部合わせて、私たちにある知らず知らず刻印されている勘違いを全部切り捨てて、神様のほかには救いはありません。だから神様なさったことを受け入れることだけなのです。自分のどうのこうのとは関係ありません。なぜ自分のどうのこうの、条件、環境、状況に振り回されているのでしょうか。先ほど申し上げましたように、いくらもがいても解決できない問題に溺れているということを認めていないからです。身動きなどが取れません。私は十字架とともに死ぬことのほかには方法がありません。自分の何がそんなに気になるのでしょうか。それは十字架で死ぬしかない、そういう悲惨なものなのです。何も頼りにする理由も、気になる理由も何もありません。私は十字架とともに死んだ。これが神のことばなのです。誰でもキリスト、イエスを信じるものは。今まであらゆることでつまずいて絶望に陥っていた人間でも希望があるわけです。誰でもイエスを信じる者は。あなたのためにイエス・キリストが十字架で死なれたので、それを信じればいいのです。信じることのほかに何も要求されません。

4) エペソ 2:8、ヨハネ 3:16

だから、これを神様の恵みというのです。あなたがたは恵みのゆえに信仰によって救われた。これはあなたがたから出たものではなくて、神様からの賜物です。ヨハネ 3:16 「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された」。この神様の無条件の愛のゆえに私たちは救われるわけです。誰でも御子を信じる者が滅びることなく、永遠のいのちを持つためなんだと。皆さんのが今まで分かっていたこと、学んできた論理、理屈などには当てはまらないので、それに当てはめようとしてはいけません。天の法則なのです。地上のものには当てはまりません。信じることだけです。これが神様のみことばが語っている内容です。なので、この福音のみことばを聞いて信仰によってアーメンする人は、幸いな人です。たとえ話で申し上げると、その人は良い地なのです。その人の今までの過去がどうであれ、現在どういう立場なのかと一切関係なく、それは人を評価する材料ではありません。この福音のみことばを聞いて、今まで売国者と言われて、娼婦と指差されていた人間でも、そして間もなく死刑になって命を落とす死刑囚であってもこの福音のみことばの前で信仰よってアーメンした場合には、あなたは幸いな者ですよ。今日あなたはわたしとともにパラダイスにいます。これが人間、人生の評価の基準なのです。だからその人は祝福の人であり、21 節にイエス様の肉の家族が訪ねてきたときに、弟子たちがイエス様に「イエス様、あなた様の家族が来ました。だから特別に配慮してこうしてはいけないのではないか」とお話をしたときに、イエス様がおっしゃいました。「誰が私の家族なのか。この福音のみことばを聞いてアーメンしているあなたがたこそわたしの家族なんだよ。神のファミリーなんだよ」。エペソの手紙にも、教会、キリストを信じて共同体となっている人々に対して、あなたがたは昔は異邦人であっても、今現在どんな立場であろうが、キリストにあって神の家族なんだ。この福音のみことばに信仰によってアーメンと反応する人は幸いな人であるし、神の家族の一員であることがあらわになります。それをあらわにします。みことばが。反対に、この福音のみことばを聞いて、何かしら状況を取り上げて信じない人の場合は、その条件がいくらもつとも理屈に合う内容であっても、その人は滅びの人であり、運命のままの人であり、サタンの奴隸であることがあらわになります。人がとても優しい人間、性格的に本当に凄い人間だから、その人が祝福の人であるわけがありません。クリスチャンはそういう考え方を正さないといけません。みことばによってあらわになります。基準は神のみことばなのです。残念なのは、日曜日にみことばが聞ける礼拝の場に来ているにもかかわらず、このみことば聞こえないのです。なぜ聞こないのでしょうか。まず第一は、その人に違うものが刻印されていて、それがまだ主張してるわけです。もうちょっと掘り下げていきますと、悪霊がそれを掴んで聞えないように思いをくらませているからなのです。悪霊の働きです。悪霊は他にすべて良いものを提供して、光の天使のように現れて、これだけが聞こないように邪魔するわけです。家でものすごい嫌なことがあって、あるいは自分の環境、状況を見ると、親に虐待され、人にはいじめられ、そういうつらいことは充分理解できるけれども、それを心に思って、それで礼拝に来て、それを利用してこの言葉が聞こえないようにする。そうすると大変だろうけれども、悪霊にやられている最

中なのです。これが判別の基準です。このみことばが。聖書の研究も勿論、必要です。しかし、研究する前に、もうこれ以上迷うところのない明確に示された神のみことば、福音のみことばにどのような反応を示すかによってまず分かれてしまうのです。神学校に行って学問を研究して教える教授の中でも、このみことばに素直に反応していない人が多いのです。それは残念な人なのです。いくら知識があっても。神のみことばに対してさまざまな語弊がありますが、神のみことばをそういうものではありません。二部礼拝でも少し言及しますけれども。だからこのみことばに対してどういう反応を示すかによって、その人とその人の人生があらわになること、これを真剣に考えてみていただきたいと思うのです。

それで礼拝を捧げているクリスチヤンの皆さんは、改めてだからこそ、みことばの前で Only キリスト、絶対キリストを告白しましょう。告白せざるを得ないのではないでしょうか。聞こえたのであれば。何がどうであれ Only キリスト、絶対キリストと告白しましょう。言葉だけのものではなくて。それでその告白をもって自分に対していることがあるでしょうけれども全部片付けて、自分はだから良い地なんだ。周りから見るとどこが何がいいのかと思われるかもしれませんよ。そういうことを気にしないで、そういうことに惑わされることなく、私は僅かな者ですが良い地なんだ。だから私は祝福された者なんだ。私は救われた者なんだ。私は神の家族なんだという確信を持って感謝しましょう。これがスタートです。つらい過去があったでしょうか。今現在も大変いろいろな問題を抱えているのでしょうか。それは皆さんを評価する材料ではありません。なのに、この福音のみことばの前でアーメンしたのではないかでしょうか。周りから見ると人生つらくて生きる力が無いから弱々しい人間が教会に集まって主にすがるというようなイメージがあるかもしれません。スタートはそういう格好かもしれませんが、彼らは知りません。皆さんこそ幸いな人、神の家族なのです。それに対して何があっても揺れない確信を持ちましょう。

それから自分がアーメンして幸いな者になったように、皆さんの周りにこの福音のみことばを聞いてアーメンするために備えられているたましいが必ずいるということを覚えてください。なぜなら皆さんがまずその証人なので。皆さんに信じられるから信じたでしょうか。スムーズな道が開かれているから簡単に信じたでしょうか。なので、皆さんの周りにも皆さんのようにこのみことばに触れることでその人の人生が祝福の人生だと、良い地とあらわになるために備えられているたましいがいることを覚えて、だからみことば蒔きなさいと言われているわけです。それを祈ってください。皆さんにそういう思いがあれば、神様が周りを動かします。こうすればこうなるだろう。本当に本当に...という計算なしで。反対されて無視された。それは当然なのです。聖書で言いますと、100 あれば 99 はそういう反応なんだ。中に 1 の良い地があるけれども、それで 30 倍、60 倍、100 倍の実が結ばれる、これが神様のやり方なのです。なので失望しないで、計算などしないで。福音の種を蒔く皆さんになることを祈りたいと思います。

最後にもう一度言います。皆さんの過去がどうであれ、現実の状況、条件、環境、状況がどうであれ、それは皆さんのが祝福の人なのか、そうではないかを評価する材料にはなりません。騙されないように。神のみことばだけが祝福とそうではないことをあらわにする鍵なのです。なので、みことばの前に立って、皆さんのが本当に惨めな人間で誇れるものが何もない。恥ずかしいことばかりですが、幸い、主は生ける神の御子キリストです。私には何の希望もありません。キリストのほかには救いはありません。世の中に必要なもの、良いもの、すごいもの、素晴らしいものはいっぱいあるけれども、私の人生の問題の解決、救いとは全く関係ないし役に立ちません。それに気づきました。キリストのほかにはありません。だから、私はキリストを信じますと信仰告白している自分がいれば、ほかのすべてをカットして「私は幸いな者なんだ。私は祝福の人なんだ。私は神の家族なんだ。2 部礼拝で少し言及しますが、だからその祝福はいかなるものなのかのほうに興味を向けるように。何がどうなるかではなくて。御座の祝福が皆さんのもとのです。地上にあるさまざまな問題にとらわれないで御座の祝福に目を向けるようになる。そのためには祝福の確信が私のものだと確信を持たなきやいけないのに、自分の評価する材料が聖書が語っている内容とは全然違うものを取り上げて評価しているからサタンに騙されるわけです。私が見ている限り、信仰的にまだまだ、たまに悪霊に遊ばれる人間もいるけれども、ここにいらっしゃる方はイエス・キリスト信じて神様に選ばれているはずだと思います。だから全員揺れない確信を持って自分自身に対しての見方も変えてください。なんでこうなの？なんで周りもこうなの？ではなくて御座の祝福を見るように。それで周りに皆さんのように福音に反応するために神様が備えていらっしゃるたましいのために用いられる証人の道を歩んでいただきたいと願います。

(祈り)

恵み深い父なる神様。ありがとうございます。私たちは何も知らずにいたそのときでも、そして勘違いして騙されてさまよっていたそのときに、神の一方的な恵みにより、キリストによる完了された救いの祝福をもって私を訪ねて来られた主の御名をほめたたえます。その福音のみことばを聞いて、「アーメン、イエスはキリスト」と告白することができたこの奇跡のゆえに私は幸いな者であるという揺れない確信を持って騙されることなく、私の方から暗闇が全部碎かれて光輝くようになる答えに預かるように、それで周りに備えられているたましいが寄ってくるようなプラットフォームになるように、内側から神の国が豊かに豊くなるようにひとりひとりを祝福してください。今まで福音的な考え方、見方ではなくて、違うもので翻弄されていたその悪魔のしわざがキリストの御名によって、みことばによって碎かれることを心からお祈りいたします。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。